BULLETIN OF JAPAN ASSOCIATION OF INTERNATIONAL PUBLICATIONS

日本洋書協会会報

Vol. 33 No. 9（通巻388号）1999年9月

海外ニュース

切迫するY2K

中小のチェーン書店および独立系書店は、コンピュータの2000年問題に対応するため、相当額のコスト負担を負わねばならぬという問題に直面している。それというのも、政府の2000年問題対応プロジェクトを率いてきた書店が、この問題に対処するため多くの人員と時間が必要と指摘しているのだ。

イングランド南東部に5店舗を持つMAHER THE BOOKSELLERは、2000年に向けて書店がどう準備すべきかを検証するBug Parkプロジェクトのために選ばれた14社の書店のひとつである。同プロジェクトが発表した3回目の報告書によると、MAHERは問題対処のために既に4,000ポンドを投入したが、これは当初予算の2倍にのぼるとのことである。Mr. Brian Finch, Finance Directorは、「経理システムから火災予防システムまで、タイマーで制御された全てのプログラムを変更せねばならなかった。このコストは多額で、独立系書店にとって最大の脅威となるだろう」と語った。彼はまた、他社もこの状況を認識すべきだと主張する。「プロジェクトの一員として、我々には事前対処についてのプレッシャーがかかっている。中小チェーンや独立系書店にとって最大の問題は、2000年問題対処のために専任のスタッフを置く余裕が無いことなのだ」

他の書店も彼と同意見である。チェーン書店THIN'SのMr. Jamie Thin, IT Directorは、2000年問題解決のためのソフトウェア開発に10万ポンドかかったと述べた。「最大の経費が経営上の時間に費やされた。いつ終るとも知れない業者とのミーティングが時間を浪費したのだ」

13店舗を擁するBOOKLANDチェーンのMr. Richard Elsley, Managing Directorは、同社が新規導入したコンピュータ・システムに5万ポンドを費やしたと言う。「これから対応するとしても決して遅すぎることはない。書店は危機的状況から目をそらすことをやめて、問題を見据えねばならない」

BOOKSELLERS ASSOCIATION会長で、BROWSER'S BOOKSHOP社主でもあるMr. Martin Grindleyは、「小規模な書店が最先端の技術を擁していることはまず無い。実に多くの書店のシステムが古色蒼然たるものなのだが、現にそれで業務を遂行しており、そしておそらくそれらは崩壊するだろう」と言う。

LEICESTER UNIVERSITY BOOKSHOPのMr. Colin Marshall, Managerは、彼らの取引先がY2K問題に協力的であるかどうか確信が持てないでいる。「どちらにせよ、出版社がコンピュータ・システムを変更すれば、蜂の巣をつついたような状況になるだろう」

結局のところ、この業界には問題に対処できるだけの能力があるとMr. Marshallは考えている。「どんな事態——たとえ全てのシステムが崩壊したとしても、我々

目　次

海外ニュース……1・2
うちの会社 ほか……2
文化厚生委員会報告……3
新・パソコン外論考(其1)……4
出版文化史逍遥(39)……5
伝えたいこと……6・7
広　告……8

は本を販売してゆくだろう。どちらにしても、我々の店舗は元旦休業なのだから」

BOOKSELLERS ASSOCIATION の Mr. Sydney Davies, Trade & Industry Manager は、「我々は業界の、特に小規模業者に対して、自社のテクノロジーを扱う業者と話し合うように再三要請してきた。しかし、今となってはこの問題に資金を投入するには遅すぎる。最悪の場合にそなえて、緊急事態に対処するプランを作成すべきだろう」と述べた。

THE BOOKSELLER/AUGUST 13, 1999

うちの会社

株式会社トッパン

東京都港区芝浦3－19－26
Tel：03－5418－2535　Fax：03－5418－2529

昭和38年9月ジョンワイリー社とリプリント版の出版契約をし、リプリント出版、販売として事業を開始しました。凸版印刷傘下の出版部門として、教科書出版の東京書籍と幼児教育出版のフレーベル館の2社に仲間入りしました。その後サウンダース社、モスビー社、フリーマン社、のリプリント版を出版販売してきました。昭和46年を境にリプリント版の販売が頭打ちになりましたので、理工書を中心に原書を輸入し、販売を開始しました。国内販売はもとより、韓国、台湾にも販売してきました。特に、理工学図書の強い英米の多くの出版社と独占契約を結び、ストッキストとして皆さんのご期待に応えてきました。

また、弊社が取扱っております出版社の中から、教科書の定番として多くの書籍が大学の授業に採用されております。今後は洋書の取扱い出版社を厳選し、より専門的な分野に力を入れていきたいと考えております。

尚、洋書取扱いと平行して、コンピュータ書およびビジネス経営書の翻訳出版も取組んでおり年間40～50点出版しています。

今後とも皆様のご支援を賜りたくお願い申し上げます。

浦辺　昭雄

訃　報

株式会社　原書店　前代表取締役　原　廣美氏は、予てより病気ご療養中のところ、9月18日逝去されました。享年62歳でした。謹んでご冥福をお祈りいたします。9月20日に通夜、21日に告別式が執り行われ、多くの協会会員が参列してお別れを惜しみました。

お知らせ

事務所を移転しました。

会員名：㈲オビワン・ケヌービー
新住所：〒192-0355
東京都八王子市堀之内 3-3-11
プリマベーラ　205
Tel：0426-70-0234
Fax：0426-70-0130
URL：http://www.obk-inc.co.jp
業務開始日：1999年9月14日

委員会報告 ＜文化厚生委員会＞

フォーティーラブの野田は雨まじり

8月28日（土）

野田のテニスのイメージは雨。記憶によれば前回の12月も大雨の天気予報。スタート時は何とかぱらぱらの雨でしたが，すぐに大雨。しかし好者達は雨も何のその、午前中に雨中戦を展開してしまいました。今回も前日までの天気予報は実は雨でした。

しかしなんと！晴れ男・女が現れまして一日中曇りの、実にテニス日和。一体その主は誰でしょう。

大体いつものメンバー20人程に今回はタトル商会から楠本氏が初参加。この人が晴れ男でしょうか。そんなことを心配するまでもなくそこここでゲームが始まり、ボールの良い音が響いていました。

いつものようにマクミランの宍戸さん、実に上手なテニスを何時も有難うございます。私どもは何度そのテニスを参考にさせてもらったことか。（それにより上手くなったかならないかは本人の腕次第、努力次第）いつも野田だけ参加の皆さんもAクラスの腕前で腕を磨くにはもってこい。

さて、このフォーティーラブも残念ながらある程度メンバーが固定してしまい若い人の姿が非常に少なくなっているようです。フォーティーラブ（40代の恋）もいつのまにかフィフティーラブになっているようで、何とか若返りを図りたいと全員が思っています。フィフティーラブでは正に試合終了ではありませんか。

テニスは難しいスポーツでも、貴族のスポーツでも、なんでもなく楽しくもあり、厳しくもあり、誰とでも対戦でき、更に腕を磨いていけばもっと上手な人とも楽しく遊べます。また、コーチも大勢いますので初心者でも気がねなく参加できます。１日で結構上手になりますよ。この会は年に４回から５回あり場所も野田あり（ここはオムニコートで足には負担が掛からず非常によいコートです。）近くでは津久井湖あり、どの場所からでも何時からでも参加は自由です。

これをお読みの若い皆さん。せっかくの仕事を忘れ、テニスに熱中する良いチャンスです。このフォーティーラブの集まりにふるってご参加ください。

（T社　KK記）

JAIP 第35回麻雀大会

去る９月３日（金）、今年２回目の35回大会が、四馬露（東京駅八重洲北口前）で開かれました。

新学期も始まって帰宅ラッシュの中、人波をかき分け雀荘に着くとそこは週末の一時を楽しむ少々年配の雀士達の戦いの場。今回も丸善さん、東亜ブックさん、大洋交易さんなど会社をあげて代表を送り込んでの三回戦は、中山さん（丸善）の小四喜和、和田さん広瀬さん（共に大洋交易）の国士無双などの役満（もっとも高い点数の上がり方）が続出し、荒れに荒れての3時間半でした。そんな中でも堅実に点を重ね、78点の得点で優勝したのが内田さん（東亜ブック）、しかも、前回の34回大会に続いての快挙で全く見事と言う他ありませんでした。表彰式のスピーチでは「今回もメンバーに恵まれて優勝することが出来ました。次回も是非勝ちたいと思います。」と西武ライオンズ・松坂投手のような感想に、参加者一同悔しさと己の実力の足りなさを反省してか拍手もパラパラと少な目、「２度あることは３度はないぞ！」との野次も飛び出すほどでした。4年振りにパイを握ったという川原さん（UPS）のブービー賞を受け取ってニッコリとはにかんだ顔も印象的でした。

一同、来年3月の次回大会での再会を約束し、幹事役の尾崎さん（エイビス）、村山さん（ゲーテ）の優しい心遣いにお礼を申し上げお開きになりました。

成績は以下の通り

優　勝	内田（東亜ブック）	78点
準優勝	広瀬（大洋交易）	63点
第三位	上原（友隣社）	58点
ブービー賞	川原（UPS）	−79点

（友隣社　上原鉄男記）

新・パソコン外論考（其1）

宇田川一彦　Udagawa Kazuhiko

◆ Everything happens to me/ツイてない時っていろんなことがおこるなぁ

子日，学而時習之，不亦説乎，有朋自遠方来，不亦楽乎，人不知而不慍，不亦君子乎

The Master said, "Is it not a pleasure, having learned something,to try it out at timely?

Is it not a joy to have friends come from after?

Is it not gentlemanly not to take offence when others fail to appreciate your abilities?

（論語/学而・Confucius : The Analects/Book I）

【超拙意訳；先生は言われた。「詩経」「書経」を読み、礼と楽とを勉強する。また、タイムリーに、勉強したことを復習する（理解が深まり、体得できる）、これこそが人生の説（よろこび）だね。また、学問の志を共にする友達が遠き所からやってきて学問について話し合う、これもまた愉快ではないか。しかし、人生はままならないものである。人から知（みとめ）られないからといって立腹しない。これこそが紳士ではなかろうか】

★再会できますことを祈って筆（キーボード/電源をOFF）を置きましてから、早10か月が過ぎゆきました。

Digital ワールドは、「ナマもの」の世界です。恐ろしいトレンドで「マシン」が、意図的に陳腐化されていく法則があるものなのです。この法則は、ある程度独占化に成功したものにとっては、甘き蜜の香がする宝の山に見えるようです。CPU にしても OS にしても。

CPU は、10か月の間にクロック数もあがりました。当時は、CPU として Pentium II（以下 P2 と表記）450 MHz を搭載したマシンが、最高速のものでした。

で、500MHz、550MHz、600MHz ときて、何を思ったかいきなり PentiumIII450MHz ぐらいから再スタート。現在P3では 600MHz というのが最高速。これに対して、MS 社に取り込まれた林檎印社は、「もう 600 MHz ってなことは、忘れてください。G4 は Gigaflops の時代ですから」と、こちらも CPU の高速化を詠っています。

残念ながら、この林檎印社をパソコン界のもう一つのと言いたいところですが、いかんせん世界的シェアから言いますと、ほんの数%ですから「ない」も同然。

これが通常のパソコンマシンの現状です。

そこで、1か月振りにアキバ（東京秋葉原）に値段のチェックに行きました。また、性能UPの価格DOWN。で、フルスペック最高速マシンで約20万円を切るくらいが目安。CPU が前の型・クロック数が 450MHz とかであれば10～11万円前後。サードパーティーの CPU であれば7～10万前後です。実感として 450MHz ももう一つ前の 300MHz クラスでも、現在最高速の P3/600MHz とそんなに遜色はありません。断言！それにしても安くなりました。

ほんとに1年前に購入したパソコンなんて、ほとんど1/3とか1/4の価値しか持ってません。筆者の友人が、先日電話してきて、4年ほど前にやっと分割で購入した当時の最高速フルタワーマシン（CPU はPになる前の最後の石、DX2/66MHz）、フルスペック（HDD は1GB程度、CD-ROM は倍速）で60万円のものが、アキバの中古機専門店でなんと、¥12,000。嘆いていました。

ということは、筆者の「原稿作成用マシン＝DX/66 MHz＝しかも OS は、MS-DOS5.5H＝通信は 2400 bps のモデム使用。だけど、Win95、98よりも速い、と思う」も、友人のと同様で、おまけに彼より1年早く入手したものですから。値段を見て（多分¥8,000円程度腹が立つといけませんので、件の店は覗かず帰宅。

閑話休題、眼を今人気のノート型パソコンに転じてみます。元来筆者は、このノート型パソコンというものは、拡張性がなくセカンドマシンにしても興味がなかったのです（やれ通信のためのモデム、外付け FDD やプリンター接続、結構重量があり、実用的でなかったのです）。

が、ここにきて、Win98搭載ノート型は、CD-ROM ドライブ搭載、HDD も結構な大きさのもの内蔵、FDD も搭載（重量とスペースの関係で、相変わらず外付けで逃げているのもありますが）モデムカード内蔵、一応デスクトップと以上とは言いませんが、利便性を考えると、ノートパソコン一台で十分「事」足りるといえます。

現時点でのノート型の主流 CPU は、デスクトップと違って前代の P2/400MHz ぐらいが最高速のものとなります。価格も、20万～30万円（CPU を考えると割高。ひとえに液晶の価格に依存しているので高い）。軽さも購入の際の重要 check-point です。また、key-top の大きさもポイントです。で、賢いノートの具体的な選び方とほんとうにワンボタンでインターネット接続可能か、ってな使用感は次号で。乞御期待。

明治初期の目録に見る洋書〔11〕

丸善・本の図書館　鈴木陽二

◆明治16年洋書目録に見る輸入の状況（2）

明治16年の丸善洋書目録にリストされている英語書籍は前回述べたように1062点あり、その内容を逐一解説することは不可能なので、断片的になるが目立った点を拾って解説してみることにしよう。

先ず目立つのは分類である。この目録には、現在通常使われている十進分類法は採用されていない。十進分類法は1876（明治9年）にメルヴィル・デューイーによって創始されたが、明治初期の大学や公共図書館の蔵書目録を見ても十進分類法が使われていないので、恐らくまだ馴染みのない方式であったと思われる。ちなみに日本十進分類法は、昭和4年に始められた。明治16年目録は、デューイーでいえばFirst Summaryを主体にSecond Summaryを組み合わせた形で、アルファベット順に配列した分類である。そしてそれだけではなく、マーケット政策を折り込んだ分類項を設定している。例えば"BOOK-KEEPING" "COMPOSITION & RHETORIC" "ELOCUTION & ORATORY" "GYMNASTICS" "PENMANSHIP" "READERS, SPELLERS, PRIMERS. &c." など、今日では見られない項目を設けている。恐らくこの時代の需要傾向を配慮して項目を立てたものであろう。

明治16年ごろは、すでに西洋式簿記が日本の経営に浸透していたが、まだまだ知識吸収・習熟の最中でもあった。明治6年に福沢諭吉がH. B. Bryant & H. D. Stratton "Common School Book-Keeping"（1871）を翻訳して『帳合之法』を慶応義塾出版局から上梓し、西洋式簿記の啓蒙に努めた。その翌月、丸善では店舗の一部を使って一般に向けた簿記の講習会を始め、福沢の翻訳書を教科書として使用した。西洋式簿記は、明治5年に国立銀行の設立に伴って、政府が銀行経営指導のために招聘したイギリス人A. A. シャンドによって初めて導入された。それを考えると、福沢の翻訳や丸善の講習がいかに時代に先行していたか、高く評価できるのではないか。国立国会図書館の明治期目録を見ると、毎年簿記関係の図書が刊行されていて、明治16年までにすでに38点にもなった。西洋式簿記に対する需要が強かったことが理解でき、丸善が目録で分類項目を立て16点も収載したゆえんも納得できる。

外国語、特に英語の学習熱が盛んであったことから、目録でその関係の幾つかの分野を独立させているばかりではなく、収録点数も126点にも上り、外の分野に比べて多い。特にこの目録では「演説法」が独立項目となって13点も掲載されているのは現在では奇異な感じもするが、時代を忠実に反映した方策としておもしろい。演説は福沢諭吉が『学問のススメ』（明治7年刊）で演説の勧めを説いており、彼や明六社の唱導により盛んになった。福沢は明治8年に三田に演説館を開設して講習会を行うなど演説の推進を図ったが、明治10年代に入り自由民権運動が活発になるにしたがって演説会の数も増加した。内務省の統計によると演説会は明治15年ごろにピークを迎え、開催数1,817回、演説者数7,657名に上った。この目録が発行された明治16年には演説数1,037、演説者4,692名であった。以後政府の政治活動に対する弾圧が強まり徐々に衰えていくが、目録が制作された頃は演説会最盛期という年代であり、演説先進国の欧米から学ぼうという意欲が、洋書の強い需要に結びついた。丸善も時流に乗り、明治10年に憲政の神様と称された尾崎行雄訳（原著不明）『公会演説法』を刊行した。

"Composition & rhetoric" という分類を独立させてあるのもおもしろい。弁論術との関係でレトリックが重要視されたこともあったろうが、外国からしか先進文化・技術を摂取できなかった時代的背景を考えると、英語習熟に対する熱意・貪欲さは想像以上のものがあったと思う。目録でこういう項目を立てることは、商策上むしろ当然であったのではないだろうか。この項目中には、クワケンボスやスウィントン、ピネオなど、定番の英作教科書がリストされているが、重要なものとしては、明治政府に招聘され、駒場農学校や大学予備門の英語教師として日本の英語教育に大変貢献したWilliam Douglas Coxの主著 "The Principles of Rhetoric and English Composition for Japanese Students" が見られるが、本書は明治15年に丸善発兌書として刊行された。〔参照文献：木村毅『丸善外史』／『丸善百年史』〕

伝えたいこと

—「BEST」と「カンカラコモデケア」—

島岡　丘

人間が常に何かを発信しているのだ。また、発信をしないまでも、よい情報に耳を傾け、それを糧にして、いずれ自己の考えがまとまり、それを発信することになる。思いつきですぐに発信する場合もあれば、一度自分なりに考えてから自信をもって開陳することもあろう。

私は幸い学内の役職の関係から、もと旺文社におられ、現在潤プランニング代表取締役の成瀬潤行さんのお話を伺うことができた。以下に豊富なご体験のお話と貴重な人生観などを伺って、私なりに触発されたことを中心に述べてみたい。

2015年になると、1/4の人口が65歳以上になるという高齢者社会になるという。私もよく勤務先で外泊するので、いろいろな情報が直接入ってくるが、定宿の女将さんのお爺さんは92歳であるそうだが、ぴんぴんしているという話をしてくれた。若さを保っておられるコツはと伺うと、畑仕事などして、いつも体を動かしていること、もう一つはよく喋ることだそうだ。お嫁さん相手にに1，2時間も話すことも珍しくないそうだ。

これから日本の社会に迫ってくる高齢者社会は高齢者というだけで遠ざけるのではなく、いずれ誰しも高齢者になるのであるから、誰も気持ちよく自然との共生、若い人たちとの互助をはかりながら、生きていく枠組みを作るとよい。

これからの生き方を示したものはよく書店で見かけるが、書かれていないことで生活の糧にしたほうがよいものがいくつかある。これも成瀬氏から伺った話であるが、要約するとBESTになるという。

B は Basis
E は English
S は Summary
T は Trend

である。この話はこれから大学を受験しようとする人たちを対象にしておこなわれたのであるが、成人一般の社会行動にもあてはまるのではないかと思う。

私なりの解釈をさせていただくと、

Basis は地球市民としての基本的な概念、感覚、行動パターンなどを身につけていること、

English はインターネット社会で英語は不可欠であり、英語を通して、受信または発信ができること、

Summary は断片的な知識ではなく、幅広い知識がうまく統合され、様々な場面にそれぞれ即応した判断ができるようになっていること、

Trend は時代の変化に敏感で、人間社会の動きを洞察できることなどである。

動物と人間との違いは、人間は知識を蓄積し、体系化し、後世に伝えていく。そのために研究と教育の機関を作り、大学及び大学院でさらに研究を深めるという枠組みを作った。もちろん、研究所も重要だが、若手との接触という点で大学が社会的に重要な働きをしている。

大学はいろいろ専門性と規模において様々であるが、理想的にはアドマイアードな（admired）大学が望ましい。具体的には人間をどう育てるかということに帰結する。研究が目的としてもその目的に至る過程で、学習者たちは人生の貴重なものの多くを学び身につける。教育的にいえば、着想力、推理力、観察力、説明力、持久力などが養われる。

そのためには多人数を相手にしていては効果があまり期待できない。少人数クラスで、しかも1対1の指導が小規模の大学で求められる。

成瀬氏がもう一つ言われたことで印象的なのは、「カンカラコモデケア」という語句である。これは記者の間でも記事を書く際に参照されるとのことであるが、エッセーなどを書く際にも考慮したい内容である。この頭文字には次の7つの概念が含まれている。

1　カン　感動
2　カラ　カラフル
3　コ　行動性
4　モ　物語性
5　デ　データ
6　ケ　決意
7　ア　明るさ

よく試験に、特に、受験の答案には5 Wh's & How を落とさないように書くよう指示されることが多いが、それだけでは面白味がでてこない。以上の7つを考慮することでは、読むほうも、楽しくないであろう。

ただし、書くほうだけでなく、読み手側にも「カンカラコモデケア」を求めることができるのではないかと思う。よく英語の教科書はつまらないといって高価な教材を買う人がいる。私は英語の文部省検定教科書を書き始めてから30数年になるが、一つの文にも多くの興味関心を引き起こすことができると思っている。

I like tennis.

の一つの文を「私はテニスが好きだ」と言って終ってしまうのはつまらない。この文には、

I like sports.
I like almost all kinds of sports.
I like tennis in particular.
I perspire a lot of during the tennis practice.
But I practice tennis with my good friend for about two hours.
I feel fine when my smash scored a point.
I take a shower after playing tennis.
Then I drink beer.
Beer tastes the best after tennis.

日本語で要約すると、およそ次のようになる。

「私はスポーツが好きです。スポーツであれば何でも好きです。テニスは特別好きなのです。テニスをしているとくは汗をかきます。でも2時間は練習します。しかし、うまくスマッシュが打てたときはいい気分になります。テニスが終るとシャワーを浴びます。それからビールを飲みますが、テニスのあとのビールの味は格別です。」

また、I like tennis. の文を教室で教える際、学習者と対話をするともっと面白くなる。生徒一人一人は個性、性格、ものの見方などが異なっており、対話によってそれぞれの持ち味が出てくるからだ。

小学校で英語教育を国際理解の一環で始めることになっているが、教え方も単に技術ではなく、学習者に、

感動を与え（カン）
豊かな想像力を駆使させカラフルに（カラ）
行動の実感を与えながら（コ）
経験したことを織りまぜて（モ）
新聞雑誌などから具体例を持ち込んで（デ）
英語を駆使しようという意思を高めさせながら（ケ）
明るい気持ちで新しい情報を身につける（ア）

ようにすれば、不登校などの問題も解消するのではなかとさえ思う。

多くの情報をまとめて記憶しようとするとき、このような頭文字（acronym）は英語にもある。筆者がUCLA のキャンパスで接したのは“Call ASAP!”だった。これは“Call as soon as possible.”のことで、「至急お電話を！」の意味であった。また TBA は“To be announced”のことで「後日発表」という意味だった。さらに MTWRF はカリキュラムに用いられるのだが、「月火水木金」のことである。Thursday を R と省略できるのは、アメリカ英語の特長の一つ、母音のあとの r 音は発音する、という原則があるからである。

英語教育で主要なのは「音読」であり、これを RAWGA という標語を作ってみた。これは

Read Aloud With Good Accent

でつまり「よい発音で音読せよ」ということである。

標語の「カンカラコモデケア」は教育の現場にも活用でき、高齢社会に突入するわれわれの生き方にも一つの大きな指針と自信を与えるものと思う。偶然だが、成瀬氏が茨城キリスト教大学に来られ、貴重なおはなしを伺えたことに感謝したい。人生は様々な出会いがあるものだ。誌上に掲載されるいろいろな行事など思い切って出でみたり、飲み屋などに行っても偶然すばらしい出会いがあるかもしれない。「フリーター」は若者だけの特権ではない。隣り合わせた人に話しかけてみたいと思っている。

（茨城キリスト教大学教授）

東京外郵通関協議会より

東京外郵通関協議会主催の実務研修会及び見学会が概略以下のように実施される見込みです。

☆研修会/期　日：10月・11月
　※新任者向け「入門コース」と実務経験者向けの「中級コース」に分けます。

☆見学会/期　日：11月中旬
　見学先：成田空港

いずれも詳細決定次第改めて連絡いたします。

なお、本年４月より当協会事務局長が同協議会副会長を努めています。遅れましたが、併せてお知らせします。　（事　務　局）

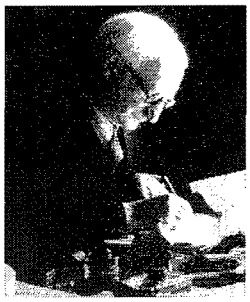
第二集刊行!!

現代福祉国家制度の父、ビバレッジ文書集成

State Provision for Social Need

Series One: The Beveridge Committee Report on the Welfare State
(Public Record Office Class PIN8 and CAB87/76-82). 26 reels
¥660,000

Series Two: The Beveridge Papers from the British Library of Political and Economic Science
Part 1: Early Working Papers on Welfare, Labour and Unemployment Insurance, 1902-1944. 24 reels ¥620,000
Part 2: Politics, Economic Planning, Social Insurance, Health and the Welfare State, 1944-1963. 24 reels ¥620,000



ビバレッジ委員会は、英国における福祉国家制度の成立において記念碑的な重要性を有しており、社会保障を含む現代の社会、経済政策を理解するにあたって、この委員会の歴史的評価は不可欠なものとなっています。本マイクロ・コレクションは、英国国立公文書館などに所蔵されているビバレッジ委員会ならびにビバレッジ本人が残した資料を包括的に集成したものであり、英国ひいては世界各国における福祉国家の成立に関する総合的な研究資料となるものです。

このたび刊行された第二集第一部および第二部では、London School of Economics図書館(British Library of Political and Economic Science)に所蔵されている膨大な量にのぼるビバレッジ自身の文書から、特に福祉国家、ビバレッジ委員会、社会保障、衛生、年金、経済計画といった主題と関わりの深いものを集成しています。福祉、労働および失業保険についてビバレッジが残した数々の文書を集成した第一部では、ロンドン失業救済基金、職業安定局、戦間期における人的資源再建といった事柄をめぐって、ビバレッジがいかなる見解を持ち、自ら活動したのかが仔細にわたって明らかにされていくとともに、ビスマルク宰相時代のドイツにおける社会保障、フェビアン協会の活動、米国でのウィスコンシン・プランなど、ビバレッジ委員会に先駆けた社会保障、福祉の試みを彼が検証していった過程も示されます。またビバレッジが国会議員となった第2次大戦末から1960年代初めまでの期間をカバーする第二部では、児童法、英国の経済情勢、住宅、家族・高齢者福祉、衛生サービス、交通問題、軍縮、国連、欧州統合など、広範な政治・経済関連の主題をめぐる彼の見解が示されます。

岐路に立つ現代福祉国家制度の再検証に欠かすことのできない資料として、また英国を中心とする20世紀前半の政治・経済を研究する上での基礎資料としてお勧めいたします。

(Adam Matthew, GBR)

日本総代理店
丸善
http://www.maruzen.co.jp/

〔本社・日本橋店〕〒103-8245 東京都中央区日本橋2-3-10 ☎(03)3272-7211 振替:00170-5-5
首都圏店舗＝お茶の水・有楽町・内幸町・浜松町・赤坂・渋谷・新宿・府中・北千住・津田沼・柏・取手・土浦
支店・店舗・営業所＝千葉・八王子・大宮／札幌・盛岡・仙台・新潟・筑波・横浜・静岡・浜松・名古屋・津・
岐阜・金沢・京都・大阪・神戸・姫路・岡山・松山・広島・福岡・長崎・鹿児島・沖縄／
ニュージャージー・ロンドン・シンガポール

1999年9月　通巻第388号　日本洋書協会　編集者 高橋 紘
〒103-0027 東京都中央区日本橋1－21－4 千代田会館5階20号室 ☎(03)3271－6901 FAX.(03)3271－6920

印刷所＝藤本綜合印刷株式会社